



新潟水辺の会特別イベント「信濃川・千曲川へサケの稚魚環境放流」

3月24、25両日信濃川、千曲川の4会場で、サケの稚魚55,000尾の放流を行なった。



西大滝ダム下流

このイベントは、独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金から資金援助を受けて行なっている、信濃川をサケが行来できるような川に復活させよとする運動の一環として実施したもので、この運動に参加している、NPO法人新潟水辺の会、NPO法人長野県水辺環境保全研究会、信濃川をよみがえらせる会、中魚沼漁業協組合、NPO法人野外学修センター魚沼伝習館、新潟大学工学部河川研究室が共同主催したものである。

本年度のサケ復活運動は、信濃川の河口から上田、松本までの河道を対象として、沿川住民のサケに関するアンケート調査、河川横断工作物の魚道実態調査、河畔林などの河道特性調査、シンポジウムなどを実施し、サケの稚魚放流は本運動のフィナーレとなった。

平安の昔から信濃川、千曲川は富山県内の河川と並ぶ、屈指のサケ生産地として知られていたが、昭和初期に始まった電源開発によって水が塞き止められ、サケなど降海性の魚類は生活環境を失い、

石月 升 (NPO 法人新潟水辺の会 世話人)

昭和15年には長野県のサケ漁が廃止、飯山市から小千谷市までの60kmを超える河道は、夏場に水温が30℃を超えるような減水区間と化し、千曲、信濃の両河川の生態系は極度に劣化したのである。

本運動は、「川に水が流れ、魚が行来する」といった「普通の川」を取り戻すことを目的とし、サケの復活はかつての信濃川(千曲川)の豊かな生態系を象徴するものである。われわれが稚魚の放流を「環境放流」と呼ぶのは、このような目的に由来している。

さて、放流当日は岸辺のタチヤナギの芽が薄紅色に染まりかけた、小雨模様の天気だったが、ようやく温みかけた早春の水面は、時ならぬ小学生たちの歓声で沸いた。



宮中ダム下流

小学生たちは、小さなバケツに入って活発に泳ぎ回る体長5cmほどの稚魚が飛び出さないように、注意深く水際まで運び、市長の放流宣言を合図に一斉に水に放った。

いつまでもバケツを離れようとしない稚魚、勢い良く上流に泳ぎだすもの、さまざまな個性を見せる稚魚たちに「こっちだよ」「早く行けよ」「元気で帰っ

新潟水辺の会特別イベント「信濃川・千曲川へサケの稚魚環境放流」(つづき)

てこいよ」などにぎやかな声援がおくられ、やがて稚魚たちは下流に旅立って行った。



犀川コムラサキの森

西大滝ダム下流 (20,000 尾) 小学生 23 名を含む 65 名、宮中ダム下流 (10,000 尾) 幼児含む 27 名、犀川コムラサキの森 (15,000 尾) 小学生 24 名を含む 59 名、千曲川八幡親水緑地 (10,000 尾) 小学生 19 名を含む 96 名、飯山、千曲両市長が参加し、十日町市長は各会場に連帯の挨拶を届けた。こうして、盛会のうちに無事サケ稚魚放流イベントは終わった。

新潟水辺の会「20周年記念シンポジウム」のおしらせ

日時：平成 19 年 9 月 22 日 (土)
午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
会場：だいしホール (新潟市中央区東堀前通 7 番町)

内容

- ・新潟水辺の会 20 年の活動報告
- ・記念講演：内山 節 氏 (哲学者)
テーマ「水辺の時間価値」
- ・鼎談：内山節、大熊孝、篠田昭 (予定)
- ・交流会：午後 5 時～ (会場：未定)

問合せ：相楽、加藤 025-230-3910、
森本 090-1613-1879

「長野まで鮭が遡上できる信濃川・千曲川に」の事業に参加して

NPO 法人長野県水辺環境保全研究会
理事事務局長 長田 健

この度 NPO 法人新潟水辺の会よりの呼び掛けにより、「長野まで鮭が遡上できる信濃川・千曲川に」に参加した NPO 法人長野県水辺環境保全研究会でありました。その昔、江戸時代には日本海より信濃川・千曲川・犀川へと数十万尾に及ぶ沢山のサケが遡上して来ていました。そのため信州が山国でありながらサケ騒動が各所で発生していました。サケは松本藩や上田藩より将軍様にも献上されていました。

また、当時にはサケの他にもサクラマス、アユ、ウナギも遡上して来ていましたが、今は全く遡上はなくなっています。

昭和 25 年から 21 年間にわたり、長野県と信越放送によりカンバックサーモンと題してサケの幼魚の放流を続けて来ましたが成果は悪く失敗状態となってしまいました。

この失敗の反応はかなり強く、今回もサケの再放流にはかなり大きな問題として障害になっております。「放流した魚が発電タービンでほとんど死んでしまう放流は止めるべき、動物愛護の面からも死をわかっているの放流はダメ」「21 年間行ってもダメであった。無駄なお金は使うべきではない。」「子供に実現できない夢ばかり持たせるべきではない。」など沢山の意見が出されました。しかし、その中でも放流対象地の飯山市、長野市、千曲市の協力で深く感謝致します。特に飯山市、千曲市におかれましては市長さんまで参加して下さい厚く御礼申し上げます。

信濃川も長野県に入ると数多くの発電ダムがあります。特に昭和 15 年に完成した新潟県境の東京電力西大滝発電ダムの存在はサケの遡上に大きな障害となっています。

また、長野市より松本市までの間には東京電力の発電ダムが 5ヶ所もあり、それも完全止水。まず、水を取り戻さなくてはなりません。それから魚の遡上できる魚道の造成です。これこそ大変な仕事となります。

かつて木曽川がそうでありましたが、木曽川沿川町村の力により水を取り戻して現在は水が連続して通年流れています。

とりあえず千曲川は小諸市まで、犀川は松本市までサケが遡上できる川に戻すべく、多くの人々の力を借りて、当会としても頑張っていく決心であります。



物語をつくり、それを伝え、記憶することの意味 —栗ノ木川さくら祭りとフェンスの取り外しを事例に—

最近、市民参加の「まちづくり」や「川づくり」という言葉をよく耳にし、またそれが実践されて、良い環境が生まれ出されてきているように思うが、そのことをどのように評価し、本質的にどう考えたらいいのかが分からなかった。しかし、「栗ノ木川さくら祭り」に関連して栗ノ木川のフェンスが取り外されたという事例から、そのプロセスが「物語」として「記憶」に残ることが重要なのだと感じたので、それについて書いておきたい。



写真1: 舟に乗るにもガードレールをまたがなければならない状況(2005年4月24日)

栗ノ木川の下流部は、かつては亀田郷の水田地帯や鳥屋野潟の排水を受け持ち、信濃川に注いでいたが、今はその上流部や鳥屋野潟が切り離され、通船川の支川となっている。その川幅は10mから20mであり、かつては汚濁河川の代表のようにいわれたが、今では浄化用水の導入によって水質も少しは良くなってきている。この川には、川沿いに緑地帯があり、約三十種類の樹木とともに、桜が二百本ちかく植えられている。

しかし、護岸は鋼矢板で落ちたら上がれない構造で、高い金網フェンスで緑地帯と川とは分断されている。この構造は、1964年の新潟地震で液状化による大きな被害を受けたあと改修されたものであるが、当時の技術思想が、緑地帯を造りながらも、治水的な観点でしか技術を展開できず、縦割り行政の効率一辺倒で、如何に川と人とを切り離すものであったのかを示している。

この栗ノ木川沿いに沼垂小学校がある。この子供達が、川の総合学習を進めるうちにこのフェンスを取り、川と緑地帯を一体としたものにできないかという希望が出された。それを聞いた地域の大人たちが協力して、その実現は夢かもしれないが、まず実情を広く知ってもらいたいと、市民だけによる「さくら祭り」が平成16年4月から始められた。この祭りでは歌や踊りのほか、フリーマーケットや屋台が並び、カヌーや舟の体験乗船が行われ、毎年数千人の人数がある。

ただ、写真1のように、その舟に乗るにもガードレールを跨ぐしかない状況であった。そうした中、平成18年3月に、新潟県が予算を工面して30mの区間だけフェンスを取り外し、円形の階段護岸を造成し、新潟市が照明施設などを施した。子供達も芝の植栽や木製護岸の作業を手伝い、ここを「水とみどりの広場」と名付けた。平成18年の第3回さくら祭りは、写真2のように、ここで行なうことができたのであった。その後、子供達は通学の行き帰りにここで亀や魚と戯れており、夏には松明の下での舞踏鑑賞会が開催されたりしている。



写真2: フェンスが30mだけ取り外された状況での第3回栗ノ木川桜祭り(2006年4月23日)

このフェンスの取り外しは、安全性の観点だけからでは許されないことであるが、日常的に触れられる素晴らしい環境がづくりあげられており、子供達や市民と行政が一体となった英断であり、画期的なことといえる。幸いなことに、栗ノ木川沿いは住宅が密集しており、子供たち

■水辺レポート

report 03 物語をつくり、それを伝え、 記憶することの意味 (つづき)

が階段護岸で遊んでいる様子は、誰か彼かの目にとまる状況下であり、ある意味大人の監視下にあるといえる。

ともかく、このフェンスの取り外しは、子供達の総合学習から始まったわけで、第3回さくら祭り開会式にその代表の挨拶もあったが、おそらくこの子供達はこのことを深く記憶し、自分の子供や孫にこの事実を伝えていくに違いない。換言すれば、物語がつくられ、それが記憶され、少なくとも100年は伝えられていくことであろう。

この事例から、「まちづくり」や「川づくり」の本質は、出来上がった完成形でなく、そのプロセスが「物語」として「記憶」に残ることが重要であると教えられた。「記憶」は、人を成長させ、人生を豊かにする源泉と考えられるからである。

なお、第4回さくら祭りも、2007年4月22日(日)に昨年と同様に「水とみどりの広場」で盛大に開催された。ただ、残念なことに開催後1時間あまりで大雨になり、会場を沼垂小学校体育館に移さざるを得ず、舟の乗船体験も40人程度で打ち切られた。何年もやるうちにはこういう年もあると思う。来年は、また、晴天の下でさくらと水辺を楽しめることを期待している。

大熊 孝 (NPO 法人新潟水辺の会 代表世話人)

通常総会のお知らせ

日時：平成19年7月1日(日)午後3時より
会場：クロスパルにいがた(生涯学習センター)
新潟市礎町通3ノ町2086番地 025-224-2088
新潟駅よりバス古町方面行き、礎町又は本町下車 徒歩3～5分

午後1時 世話人会(理事の方)
午後3時 通常総会(一般会員の方はここから参加)18年度事業報告、19年度事業計画他
午後5時 懇親会 ロオジ(Co-C.Gビル4F)
(旧越路会館)参加費:3,150円

問合せ：相楽、加藤 025-230-3910、
森本 090-1613-1879

report 03 梅八造船さんより 板合わせの寄贈について



(株)日建技術の中山久夫氏は、(有)梅八造船所の親戚であり、現在在庫している新造船の「板合わせ」を利活用できる人がいれば、寄贈する旨の相談をされておりました。その中山氏より新潟水辺の会が希望すれば紹介するとの話が風間善浩世話人にありました。

我々にとっては大変うれしいお話で、私と風間氏、中山氏と共に3月11日に梅八造船所さんへ伺い、ありがたく寄贈をお受けすることに致しました。

また、寄贈を受けるに際しては、相応のお礼を考えますと申し上げ、4月に入ってから引き取りさせてもらうことで、心よく了承していただきました。

特に梅八造船所からは、これまでの技術や業績を今後も残したいとの強い希望が有り、できるだけ努力をすることを約束してきました。

寄贈された「板合わせ」は、3～4人乗りの小型(同型)3艘(小型楢3本)、小型の帆船1艘と「ろ」楢で漕ぐ小舟1艘(ろ1本)、全部で5艘を寄贈していただきました。小型の「板合わせ」は舟を漕ぐ初心者には適当な大きさで、これから舟を漕ぎはじめる人が1人でも多くなるような機会をつくらなければと考えております。また、正規の繋留場所、格納場所を確保することも急務です。

安田幸弘世話人の段取りで4月8日の午前中、梅八造船所より5艘を搬出し石山地区にある仮置き場に設置し、その後、塗装してから進水する予定にしております。

何はともあれ、(有)梅八造船所、並びに中山久夫氏には衷心より感謝申し上げます。

世話人 松野 直一



report

それでも泉田新潟県知事にエールを

今年、新潟水俣病は公表されて42年目を迎える。この間、行政はどうであれ住民の命と健康を守る立場から、まずは被害者の早期全面救済と実態調査が必要だったはずだ。ところが未だに被害者は新たな裁判(第三次訴訟)を打たねばならない状況にあり、その全貌も解明されていない。

そして、被害者を支援してきた私たちも旧態依然としたスタイルから抜け出せずに金太郎飴的な運動を展開し、自ら視野狭窄になってしまったことを反省しなければならない。

確かに行政は認定棄却を繰り返すだけでその救済を裁判や被害者運動に任せ、自身で積極的な解決策を講じてこなかった。

しかし、ここに来て泉田新潟県知事は少し違うようだ。例えば新潟水俣病40年記念事業の場合。県立「環境と人間のふれあい館」から、この記念事業に協力してほしいと電話があった。時間が無い、人手がない、お金がないと前置きされたが、頼まれると嫌と言えない我が「冥土のみやげ企画」は引き受けてしまった。(そもそも「冥土のみやげ企画」などに依頼すること事態がおかしい)

開催まで3ヶ月も無いまま、タイトルは新潟水俣病40年「阿賀ルネサンス」と題して書家の小山素雲さんに揮毫を願い、とにかくスタートした。ポスターデザインはオフィス・カイの上田さんに、挿絵は神戸のイラストレーター「わっくん」こと湧嶋克己さんに頼んだ。ピンクの地にお地藏さん親子が溢れる大きさで微笑んでいた。

主催新潟県、企画制作「冥土のみやげ企画」と並べて書いたら、せめて主催を少し大きくしてほしいと言われたが断る。してやったり、と思わず皆でほくそ笑んだ。

熊本学園大の原田正純先生の講演をはじめ、水俣病関連の映画を1週間かけて一挙に上映。「新潟水俣病から生まれた表現者たち」では小林茂さん、里村洋子さん、関礼子さんたちが駆けつけてくれた。そして圧巻は患者会の専属歌手、渡辺参治さんの名調子に乗せてわっくんがライブペインティング。直球、変化球、何でもありで行政とでも一緒にひとつ仕事がやれたと言う充実感をはじめて味わった。35年余りのかかわりの中で得た宝ものような友だちの緩やかなネットワークの総動員でもあった。皆で呑んだ酒の旨かったこと。

この後、確かに行政は変わりはじめたと思う。新潟NPO協会の力添えではじめた新潟版「もやい直し」の寄り合いシリーズやフィールドミュージアム構想など、これまでの水俣病関連事業ではなかったことである。



新潟水俣病40年阿賀ルネサンス

しかし、まだ先が見えず不安なこともある。健康被害だけでなくこの事件によってズタズタにされてしまった地域の絆や誇りの再生に繋がるものであってほしいものだ。これまで大きな裁判を二度も経験し、被害者には大変な負担を強いてきたにもかかわらず、新たに第三次訴訟の話も出ている。

けして過去のことでない。現在進行形であることを私たちは忘れてはならない。先日、未認定患者のSさんが郵送されたアンケート用紙を持ってやって来た。短期間でずさんな内容の実態調査と称し、あらたな政治解決を目論む与党プロジェクトの怪しげな動きもある。こんなもの、なんで新潟県は引き受けたのか。毅然と断り、独自に保健師を動員して直接面談し、徹底した実態調査をやれば良かったはずだ。

まだまだ事態は油断できないことが多い。それでも敢えて泉田さんには過去の水俣病行政に囚われることなく、頑張れとエールを送りたい。勿論、我々も協力は惜しまないから。

冥土のみやげ企画 旗野 秀人

■水辺レポート

九重ふるさと自然学校が開校します

長らくお世話になった新潟を離れ、はや4ヶ月…やっとの事で住む家が決まったことは私事ですが、水辺の会もかつて活動助成を受けた事のあるセブン-イレブンみどりの基金が、基金初の自然保護の実働部隊として、この春開校するのが九重ふるさと自然学校です。

自然学校が開校する場所は、大分県玖珠郡九重町といい、標高約1000mの高地にタデ原・坊ガツルというラムサール条約に登録されている湿地があり、筑後川の源流のひとつとなっている場所です。さらに、行政の助成などを受けず、地域住民の持ち寄りで、九州唯一の「氷の祭典」を暖冬の今年も開催し、3万人以上の来場者を集めきるつわもの達がいる場所でもあります。

このような場所に、ただ人々を呼んで自然体験をさせるのではなく、九重の豊かな自然を守りながら、伝えていく事を目的とした自然学校が九重ふるさと自然学校です。

活動内容を大きく分けると、タデ原・坊ガツル湿原の保護・保全と里地・里山の保護・保全があります。タデ原・坊ガツル湿原の保護・保全活動は文字通り、タデ原・坊ガツルとその周辺の自然環境の維持や復元などを目的とした活動で、清掃活動、基礎調査などから始まり、個人的にはラムサール条約に登録された区域周辺のトラストなどを将来的にやりたいと考えています。里地・里山の保護・保全は無農薬をはじめとする自然共生型の農業や、自然と共に生きる生活様式、文化などの記録・伝承、休耕田の利用、炭焼きなどを習得、普及、研究していくことを考えています。

開校間近ということもあり、仕事に忙殺される日が続いていますが、水辺の会のスタッフとして働かせていただいたときの経験が十二分に活かされていることを実感します。

九重は新潟からはるか遠くではありますが、温泉もあり、なかなか魅力的なところですので、是非とも一度お越しください。そのときまでには、九重の自然をガイドできるようになっておきます。

寺村 淳

街なか他門川再生フォーラム

古町のNEXT21の1回アトリウムで3月24日(土)から4月1日(日)までの9日間、これまでの総決算として他門川再生活動の公開展示が行われた。展示はこれまでの研究成果として15毎のA1パネルまとめられる共に、畳一畳大の縮尺1/1000の過去と未来提案模型が展示された。この展示に加えて新潟大学の岩佐助教授もこれまでの活動についての萬代橋を中心とした水辺の賑わい空間の社会実験等のパネルも展示された。人通りの多い場所でもあり、足を止める市民も多く、比較的高齢の方々からは過去の他門川周辺の様子の話しが聞けて盛り上がった場面も数多くあった。



最終日の4月1日(日)には午後1時30分より、会場の一角で「川の再生による街なか再生」と題して「街なか舟運」「街なか自然再生」の2大テーマで60分の短いフォーラムが開催された。ゲストに岩手県の北上川流域での舟運に取り組んでいる小山さんを迎え、新潟大学の大熊先生をコーディネーターに話しが進行した。スペースの関係でミニフォーラムとなったが、他門川再生に向けて確かな手応えの感じられる1時間であった。

検証の結果、他門川周辺の地盤を1メートル程度高くした堤防を設けることで、信濃川と接続する自然河川としての再生が可能であることが判明した。今年度にクリア出来たいくつかの課題の一つである。今後は再生に向けて地域住民や新潟市民のなかで大きな流れとなっていける様にさらに活動を次のステップに結びつけていきたい。

上山 寛(建築家:新潟水辺の会会員)

report 07 万代シテイに船着場ができました

2007年4月1日、万代シテイに常設の船着場がオープンしました。予ねてより、信濃川ウォーターシャトル株式会社は、万代シテイ商工連合会商店街振興組合とも連携して、新潟市内で最も商業集客力の高い万代シテイ地区に常設の船着場を作って欲しい旨、新潟市長に対して要望を提出して参りました。また、新潟商工会議所が毎年秋に行なっている、新潟市に対する新年度予算編成にあたっての要望事項にも、まちづくりの観点から、万代シテイにおける船着場設置を毎年のように盛り込んできました。ようやくその努力が実り、この日を迎えることができました。

前夜の激しい雷雨も上がり、風は強いものの晴れの朝となった4月1日には、新潟市防災船着場(万代シテイ)利用者協議会の主催、新潟市の共催により、ささやかな開業式典を挙行致しました。9時30分から新潟市土木部長(新潟市長代理)からご挨拶を頂戴し、国土交通省信濃川下流河川事務所長からご祝辞を、そして予定していた北陸信越運輸局海事部長が能登半島地震発生により、急遽欠席となったこともあり、主催者を代表して利用者協議会の会長も務めます栗原が御礼のご挨拶を申し上げました。その後万代シテイ商工連合会商店街振興組合の副理事長さんも加わって、4名で晴れのテープカットと相成りました。10時ちょうどに3日間限定で運航する特別周遊便の第1便を見送り、式典はお開きとしました。



100%公共事業により、整備された万代シテイ船着場ですが、整備目的の第一義は、防災とされています。阪神淡路大震災において、寸断された陸上交通に代わり、特に阪神間の救援物資の輸送に水上交通が絶大な

威力を発揮したことから、全国各地で防災船着場の整備が進められました。



大阪にあるユニバーサルスタジオ・ジャパンにも巨大な浮棧橋方式の防災船着場が整備されており、浮棧橋(巨大な箱です)の内側には、災害の発生に備え水や食糧が備蓄されていますが、ふだんは対岸の天保山などを結ぶ旅客船の船着場として使われています。

信濃川では、旧白根市の赤渋、善久、県庁前、そして白山などに防災船着場の整備が実施され、万代シテイは5箇所目となります。また、この船着場は、舟運活性化と公共交通機関としての位置づけも二次的にされています。従って、船着場までの案内看板であるとか、旅客待合設備(屋根、風除け、ベンチなど)は、これから順次整備されて行くことと思います。

ここまで来るのに、ずいぶんと時間がかかったこともあり、感慨もひとしおです。ウォーターシャトルのシャトル便は全便寄航致しますし、地元の万代シテイ商工連合会商店街振興組合(それにしても長い名前です)などとも連携し、各種のイベントに使ってもらうことを計画しています。皆さんも、万代シテイへお出かけの際には、混雑する駐車場を避け、ウォーターシャトルで行ってみて下さい。各ショップにもお願いし、お買い物の金額に応じて優待乗船券を発行してもらうことも検討中です。

舟運の利用が進めば、さらに増便する道も開けてきます。水辺の会の皆様の活発なご利用を期待しています。

信濃川ウォーターシャトル株式会社
栗原 道平

新潟水辺イベント情報 新潟水辺の会 & 関連団体ほか

- 5月20日(日)「新川 石碑・橋・排水機場めぐり」
問合せ:相楽、加藤 025-230-3910
主催:越後新川まちづくりの会
- 5月20日(日)NPO 法人五泉トゲソを守る会 10周年記念大会 トゲウオ記念講演会:講師森誠一岐
阜経済大教授ほか 問合せ:中村/NPO 法人五泉トゲソを守る会 0250-22-0271
- 5月24日～25日(金)堀割協議会総会(七尾市)
問合せ:相楽 or(株)御祓川
<http://www.noto.or.jp/nanao/asi/index.html>
- 5月26日～27日(日)水郷水都全国会議松江大会
<http://www.sui-sui.sakura.ne.jp/>
- 6月2日(土)「粥川風土記」(民族文化映像研・姫田忠義監督)上映会 新潟市万代市民会館、入場料1,000円 昼:2時開演 夜:5時30分開演 「人は人のなかで自然のなかでどのように生きてきたか。地域の記憶と先人の知恵に、明日の自分を見出すことができたら幸せです」問合せ:斎藤 025-262-1236 大熊 025-261-0135
- ◆6月2日(土)通船川川掃除船(毎月第1土曜日に出港予定/要参加連絡) 問合せ:横山(通船川草刈隊長)090-2656-5311
- ◆6月3日(日)を中心に、第4回「身近な水環境の全国一斉調査」を実施 全国では約5,000ヶ所、新潟県内約320ヶ所の水辺の水質調査を行います。
問い合わせ:加藤 025-230-3910
- 6月6日(水)第3回やすらぎ堤懇談会
栗原、相楽が委員として参加
- ◆6月9日(土)10日(日)
しなの川考流会「サケの信濃川活動事業連携中」
上高地における外来種の現状を見て学ぶ研修会
問合せ:森本 090-1613-1879
- 6月9日(土)10日(日)土堀休耕田 復水路・ビオトープづくり 問合せ:中村/NPO 法人五泉トゲソを守る会 0250-22-0271
- 6月30日(土)佐渡小木琴浦海岸多目的事業
7月1日(日)佐渡小木琴浦海岸海中清掃作業
問合せ:NPO 法人長野県水辺環境保全研究会 026-238-6680
- ◆7月1日(日)新潟水辺の会通常総会 会場:クロスパルにいがた 1時世話人会 3時総会 5時懇親会/会場ロオジ(Co-C.Gビル4F)(旧越路

- 会館) 参加費:3,150円 問合せ:相楽、加藤 025-230-3910、森本 090-1613-1879
- ◆7月7日(土)通船川川掃除船(毎月第1土曜日に出港予定/要参加連絡) 問合せ:横山(通船川草刈隊長)090-2656-5311
- 7月8日、7月15日、9月2日 トゲソ生息地泥上げ、藻刈り、草刈り 問合せ:中村/NPO 法人五泉トゲソを守る会 0250-22-0271
- 7月13日(金)犀川コムラサキの森・アレチウリ絶滅大作戦 問合せ:NPO 法人長野県水辺環境保全研究会 026-238-6680
- 7月20日(金)～22日(日)第10回「川の日ワークショップ in 東京」<http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/kawanohi.htm>
- ◆7月末 通船川中流川祭(予定) 問合せ:星島、佐藤
- ◆8月4日(土)通船川川掃除船(毎月第1土曜日に出港予定/要参加連絡) 問合せ:横山(通船川草刈隊長)090-2656-5311
- 8月5日(日)第6回早出川清流スクール 問合せ:中村/NPO 法人五泉トゲソを守る会 0250-22-0271
- 8月11日(土)、12日(日)川を流域住民(あなた)が取りもどすための全国シンポジウム in 徳島
問合せ:NPO 法人吉野川みんなの会 088-612-9200
- 9月8日(土)つづくり市民会議
- ◆9月8日(土)通船川川掃除船(毎月第1土曜日に出港予定/要参加連絡) 問合せ:横山(通船川草刈隊長)090-2656-5311
- ◆9月22日(土)新潟水辺の会「20周年記念シンポジウム」 会場:だいしホール 午後1時30分～4時30分 問合せ:相楽、加藤 025-230-3910、森本 090-1613-1879
- 9月23日(日)川東地区小河川でのトゲソ生息調査
問合せ:NPO 法人五泉トゲソを守る会 0250-22-0271
- ◆ :水辺の会主催事業 & 連携事業。(5/20～9/30まで掲載。ここにサケの信濃川・千曲川復活事業など企画事業、ツアー企画などが入ります。随時ホームページやメール、FAXでお知らせいたします)

「洪水と治水の河川史」増補版発売



大熊会長の著書「洪水と治水の河川史」(平凡社、1400円(税別))が5月10日に再発行されました。これは19年前に発行されたものですが、文庫本として補論を加え増補版で復刻されたものです。宣伝文を紹介します。「川とは、人にとってどのような存在なのか。近代治水技術の発展と限界を歴史的・具体的に検証し、自然と共生をめざす治水のあり方、「溢れても

安全な治水」とは何かを追究した画期的著作。脱ダム問題なども含め、近年の研究を踏まえた新論考「川の本質を考える」を増補した新版。』水辺の会のイベントなどで販売しますが、書店などでもお買い求めください。

●事務局からのお願い

インターネットメールで随時会員の皆さんに情報をお届けしています。メールアドレスを新しく持った方、アドレスを変更された方は事務局まで御一報ください。

●発行:特定非営利活動法人 新潟水辺の会

●事務局:〒950-2264新潟市みずき野4-7-15

大熊 孝 方

Phone 025-264-3191

F a x 025-264-3260

ホームページ

<http://www17.plala.or.jp/mizubenokai/>

メール mizubenokai@plum.plala.or.jp